

# 平成26年度成果報告書

## I. 業務の内容

### 1. 業務の題目

「伝える」科学コミュニケーションに関する基礎調査

### 2. 担当フェロー

渡辺 政隆

内田 麻理香（アソシエイトフェロー）

### 3. 当該年度における成果

業務の項目は以下の通りである。

- (1) 科学コミュニケーションの全国的ネットワークの構築
- (2) 「ミドルレンジメディア」をキーワードに、市民が必要とする情報の流通方式を検討
- (3) 「伝える」科学コミュニケーション俯瞰のための調査

各業務項目の詳細は以下の通り。

#### (1) 科学コミュニケーションの全国的ネットワークの構築

- ① サイエンスアゴラ 2014 にて、シンポジウム「科学館による地域科学コミュニケーションの発展」（ネットワーク形成先進的 science 館連携型実施機関成果報告会）にコーディネーターとして企画段階から参画し、当日はファシリテーターとして議論の活性化を促した。

シンポジウムの開催概要は以下の通り。

【日時】2014年11月8日（土）13:00～14:30

【会場】産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館 11F 会議室 1

【参加者】32名（内訳：科学館職員、科学コミュニケーターなど科学コミュニケーションの実践者および研究者）

【概要】

JST 科学技術コミュニケーション推進事業 ネットワーク形成先進的 science 館連携型支援企画実施機関である、静岡科学館る・く・る、千葉市科学館、兵庫県立人と自然の博物館、島根県三瓶自然館サヒメルによる、これまでの成果報告とパネルディスカッションが行われた。

- ② ネットワーク形成先進的 science 館連携型支援企画実施機関へのグループインタビューを実施

JST 科学技術コミュニケーション推進事業 ネットワーク形成先進的 science 館連携型支援企画実施機関 4 館それぞれの館長と実務担当者に対して、理想の science 館、館として自慢できること、これからの science 館の役割などについてグループインタビューを実施した。

#### (2) 「ミドルレンジメディア」をキーワードに、市民が必要とする情報の流通方式を検討

- ① サイエンスアゴラ 2014 にて、ワークショップ「国連科学委員会福島報告書をいかに活用するか」を原子放射線に関する国連科学委員会（UNSCEAR）、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会（JASC）、ミドルメディア実行委員会とともに開催した。

ワークショップの開催概要は以下の通り。

【日時】2014年11月9日（日）10:30～12:00

【会場】産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館 11F 会議室 1

【登壇者】

Wolfgang Weiss (Chair, UNSCEAR Fukushima Report)

Stephen Solomon (Group Leader, UNSCEAR Fukushima Report)

Lynn Hubbard (Lead Writer, UNSCEAR Fukushima Report)

Malcolm Crick (Secretary to UNSCEAR)

半谷輝己（福島県の地域メディアエーター）

司会 渡辺政隆（JST 科学コミュニケーションセンターフェロー）

コメンテーター 小島正美（毎日新聞編集委員）

【参加者】48名（科学コミュニケーター、教員など科学コミュニケーションの実践者および研究者）

【概要】

地域住民が抱く不安や不信感を解消するにあたり、科学技術の専門家が提供する知識・見解をどのように活用するかを、福島県の原子力発電所事故を例に、国連科学委員会委員、地域コーディネーター、報道関係者をパネリストに交えて議論した。

## ② ミドルレンジメディア中間報告書の作成

本ユニットで平成24年度から取り組んできたミドルレンジメディアに関する検討についてとりまとめた報告書を作成した（別紙）。

## （3）「伝える」科学コミュニケーション俯瞰のための調査

既存事業の見直し、新規事業、課題研究テーマ等の提案に資することを目的として、国内で実践されている「伝える」科学コミュニケーション（テレビ番組、ニュースサイト、新聞、書籍、雑誌、ウェブサイト、スマホアプリ、動画サイト）について具体的な事例を収集し、とりまとめた。